



くすい箱

発行
 桐生厚生総合病院 薬剤部
 発行責任者 田村 潤一
 編集担当者 松島 知子
 細谷 潤

第18回目のテーマは“インフルエンザウイルス治療のお薬について”の紹介です。



当院採用インフルエンザウイルス治療薬一覧



製品名	タミフル	リレンザ	イナビル	ラピアクタ
剤形	カプセル ドライシロップ 	吸入 	吸入 	点滴 
使用方法 期間	1日2回 5日間 予防:1日1回 7~10日間	1日2回 5日間 予防:1日1回 10日間	1回のみ	1回のみ
特徴 その他	予防での使用可能 妊娠中・授乳中の使用 経験あり	予防での使用可能 妊娠中・授乳中の使用 経験あり	1回の吸入で終了	1回の点滴で終了

インフルエンザウイルス治療薬は体内でインフルエンザウイルスが増えるのを抑える薬です。

吸入薬と注射薬、内服薬(カプセル・ドライシロップ)があります。

体の中に入ったインフルエンザウイルスは猛烈な勢いで増え続け、症状が出てから2~3日後(48~72時間後)に最も数が多くなります。つまり症状がでてから48時間までに治療薬を使用することで、病気の期間を短く、症状の悪化を防ぐことができる可能性が高いのです。症状が出た場合にはできるだけ早めに病院に行って医師に相談するようにしましょう。

また、妊娠中・授乳中の女性の方であってもインフルエンザ治療薬を使用できないということはありません。タミフル・リレンザについては妊娠・授乳中の女性での使用経験があり、催奇形性の危険性や母乳への移行の影響は高くないと考えられています。使用にあたっては医師とよく相談してください。

よくある質問



抗生剤はインフルエンザに効果がありますか？

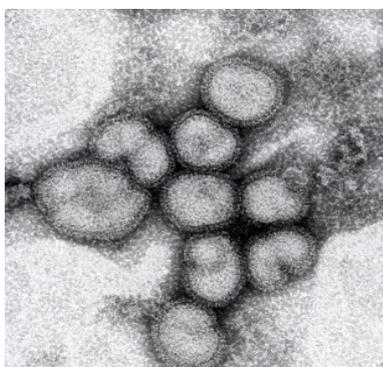
インフルエンザウイルスに抗生剤は効きませんが、他の細菌にも感染することによっておこる肺炎、気管支炎などの合併症に対する治療として、抗生剤等が使用されることはあります。



風邪薬はインフルエンザに効果がありますか？

いわゆる総合感冒薬の中には、鎮痛解熱剤、咳止め、痰の切れをよくする薬、鼻水を止める薬(抗ヒスタミン剤)が含まれています。特に解熱剤はインフルエンザに使用しない方がよい種類もあり、注意が必要です。その他の薬もかえって害になることもありますので、早めに受診してください。

インフルエンザウイルスの正体



札幌市衛生研究所より引用

インフルエンザウイルス (influenzavirus , flu virus)の大きさは1万分の1ミリ(100nm、1/10 μ m)で、ウイルスはヒトの喉や気道の粘膜細胞の中で増殖します。エンベローフという脂質の膜で包まれており、その表面には粘膜細胞に取り付くためのたくさんの突起がついています。この突起の形や内部のたんぱく質の違いにより、それぞれA型、B型、C型に分けられます。そのうちC型は殆どの方が免疫を持っているので、実際に毎年流行するインフルエンザはA

型とB型の2つであるといえます。A型の特徴は感染力が強く、全体の6割弱を占め、多くの亜科が存在します。突発的変異により、新型インフルエンザとして現れ大流行となることもあります。また、人以外の豚や鳥などにも分布しており、鳥インフルエンザもA型に分類されます。一方、B型は2系統にわかれますが亜科は存在しません。変異はしにくいので、大きな流行にはなりません。重たい合併症を起すこともあるので注意が必要です。

次回は、2011年3月発行予定です。